

◆ニックネーム・グループ名（人数）

お慈悲をください（4人）

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS

## 豊橋市高校生SDGsチャレンジ活動

## タイトル 豊橋イクメン増量計画

## 活動の動機

豊橋の未来を創る人が育つまちにするために、安心して子育てできることが大切だと考える。将来、子育てをする時に、パートナーとの子育てを平等にすることが大切だと思い、豊橋の育休について調べることにした。

第2章 豊橋市における現状と課題		
1. 現状		
(1) 課題		
① 育児休業の取得率 男性職員の育児休業取得率、育児参加休暇の取得率		
前年度	育児休業取得率 男性 10%、女性 100% 出産補助休暇取得率 100%、育児参加休暇取得率 100%	
実績	育児休業取得率	
	男性	H27 2.0% H28 0.0% H29 3.7% H30 1.7%
	女性	100.0% 100.0% 100.0% 100.0%
	出産補助休暇、育児参加休暇取得率	
	H27 H28 H29 H30	
出産補助休暇	49.5% 78.4% 43.0% 37.2%	
育児参加休暇	13.1% 15.7% 19.5% 15.7%	
分析	女性職員の育児休業取得率は100%を継続しているが、男性職員の取得率が依然低いままである。また、出産補助のために休暇を取得し、育児参加が不要な年次の育児休暇として申請する機会がある等の理由から、男性職員の取得率が依然低いままである。	

## 取組・活動 実施日

令和3年7月14日～10月28日

## ゴール

5 17 10

## 解決したい地域の課題

豊橋市の男性の育児休業取得率はずっと低い状態が続いており、平成28年度にはついに0%になってしまった。対照的に、女性の取得率は100%を保っている。育児休業取得率の男女比の偏りの改善が課題である。

## 目指す将来の姿

現在日本では性的役割分業の改善や男女共同参画社会への推進がなされている。しかしながらいまだに性別による負担の差があるため、女性が産後の疲労や育児疲れ、家事をしてくれない夫へのストレスを感じるなど課題は多く残っている。そのため、地域全体がこれらの課題を乗り越えたまちづくりを目指している。

## 活動の内容

育休は取るべきか否かとその理由と、親族の育休状況について学年全体にアンケートをとった。まず育休を取るべきか否かについては、過半数の人が男女どちらもとるべきと解答している。理由は多くの人が男女平等と答えていた。しかし、親族の育休所得状況は取得していない人が44%もあり、所得した人もほとんどが女性だった。ここから意識と所得状況のギャップを感じた。